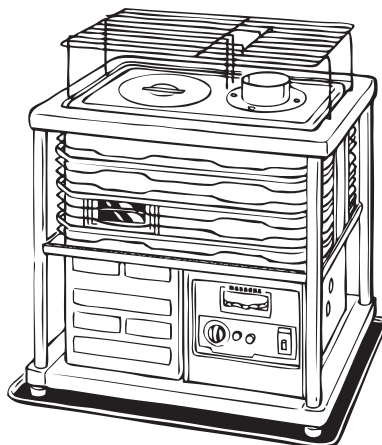
SUNPOT

サンポット石油暖房機
（半密閉式石油ストーブ）

取扱説明書

型名
KSH-10KT6

- このたびはサンポット石油暖房機をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
- お使いになる前に必ずこの取扱説明書をよく読んで、ストーブを家族全員で正しくご使用ください。
  なお、この取扱説明書は、保証書と共に必ず保存してください。

お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。（ストーブを移設させる場合も同じです。）

- 商品には保証書を添付しております。
  保証書はよりよい製品作りやアフターサービスの向上に役立たせていただきますので、お手数ですが所定事項のご記入をご確認のうえ、必ず保証書控えをお買いあげの販売店にお渡しください。

サンポット株式会社

もくじ

取　扱　編

工　事　編

取扱編

特に注意していただきたいこと

安全のために必ずお守りください

この取扱説明書には本機を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項が表示されています。
表示内容をよくご理解いただき、本文をお読みください。

●ここに示した事項は ⚠ 警告、⚠ 注意に区分しています。

警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト（まんが）の横にあるマークは次のように表しています。

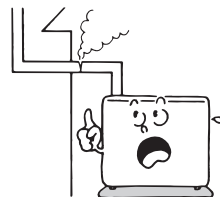
	マーク	禁止
	マーク	指示
	マーク	注意

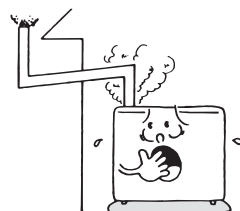
⚠ 警告(WARNING)

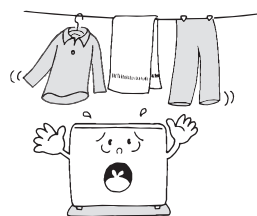
ガソリン厳禁

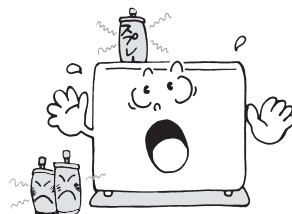
● ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

煙突外れ危険

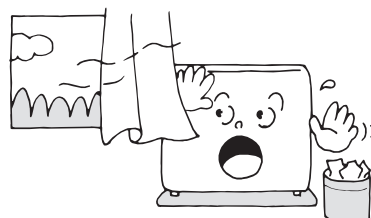
● 煙突が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

煙突閉そく危険

● 煙突がつまったり、ふさがれたままで使用しないでください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

衣類の乾燥厳禁

● 衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

スプレー缶厳禁

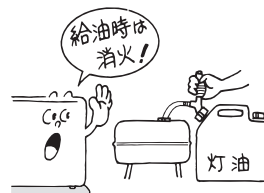
● スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や前に（周囲に）放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

⚠ 注意(CAUTION)

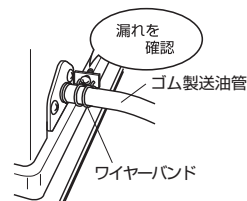
カーテン、寝具など可燃物近接禁止

● カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。
火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については標準据付け例 (25ページ)を参照してください。

安全のために必ずお守りください

⚠注意(CAUTION)

給油時消火

- 火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。

油漏れ確認

- 油タンク・ゴム製送油管・接続部およびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。
  灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

異常時使用禁止

- 万一異常を感じたときは、使用しないでください。
  異常燃焼のおそれがあります。

高温部に注意

- 燃焼中や消火直後は、高温部（トップガードなど)、煙突に手などふれないでください。やけどのおそれがあります。特にお子さまをストーブに近づけないでください。

指や異物を入れない

- ストーブの内部やガード内などに指や異物を入れないでください。
  けがや火災のおそれがあります。

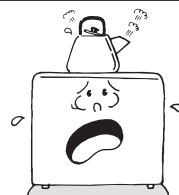
腰をかけたり物をのせない

- ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。
  ストーブの故障ややけどのおそれがあります。
- ストーブの上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。
  水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

特に注意していただきたいこと つづき

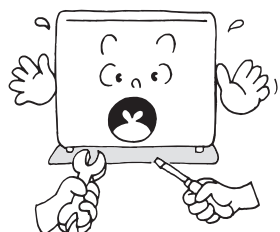
⚠注意(CAUTION)

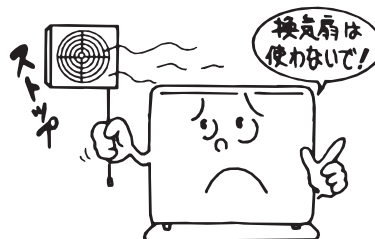
やかんのせ禁止

● やかんなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。

分解修理の禁止

● 故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

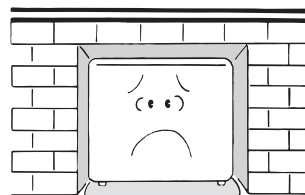
改造使用の禁止

● 改造して使用しないでください。また、ストーブや煙突には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

換気扇使用禁止

● ストーブを使用している時は室内の換気扇を使用しないでください。
立消えして爆発燃焼するおそれがあります。
また、換気口・給気口は常に確保し、物などでふさがないでください。

特殊な場所での使用禁止

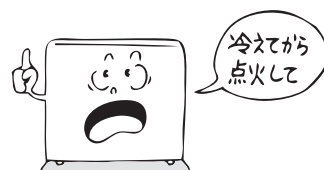
● ストーブは居室の暖房用としてつくられたものですので、乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。また、クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。
化学薬品などの影響により異常燃焼や故障の原因になります。

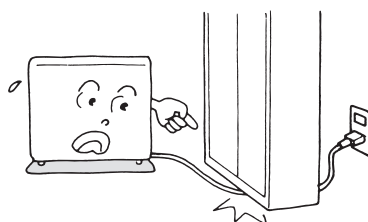
マントルピース内据付け禁止

● マントルピース内には据付けないでください。
ストーブが故障したり、火災の原因になります。

安全のために必ずお守りください

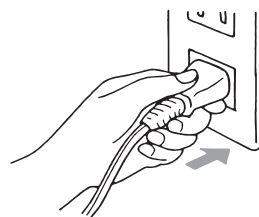
⚠注意(CAUTION)

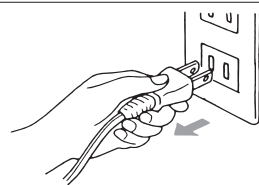
再点火に注意

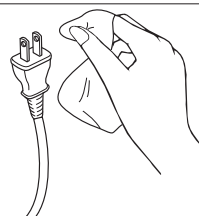
- 消火後すぐ再点火する場合は、ストーブが冷えるまで（15分位）まってから行ってください。すぐ再点火しますと爆発燃焼するおそれがあります。

電源コードを傷めない

- 電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
  火災や感電の原因になります。

電源プラグは確実に差し込む

- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
  （また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。）

  火災の原因になります。
- ぬれた手での抜き差しはしないでください。
  感電の原因になります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
  火災や予想しない事故の原因になります。

電源プラグのお手入れをする

- ときどきは電源プラグを抜き、ほこり（及び金属物）を除去してください。
  (ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり）火災の原因になります。

お願い(NOTICE)

灯油の廃棄

- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。
場所の選定は「据付け場所の選定及び標準据付け例」の項をお読みください。（25ページ参照）

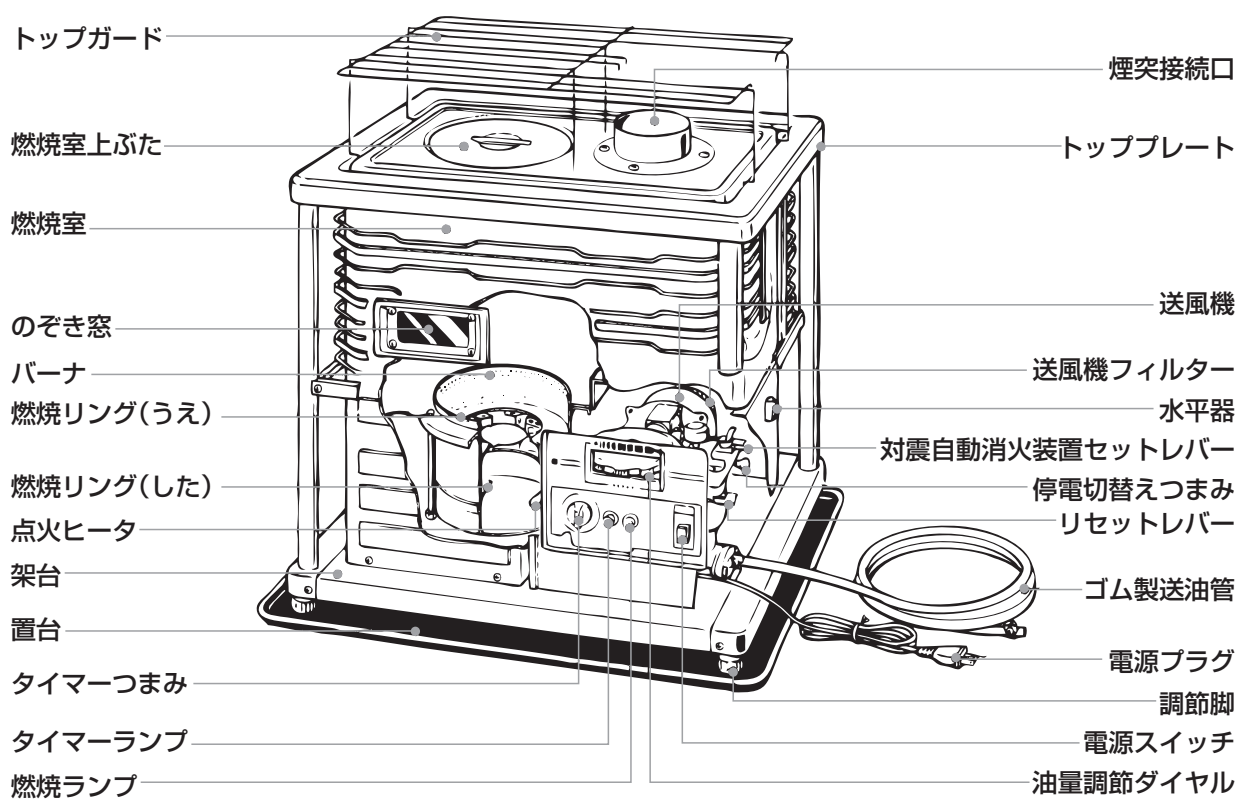
■効果的に使用するために

- 部屋の中央に据付けると、冷気が暖められて対流しますので効果的です。

次の場所では使用しないでください。火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所または換気の行えない場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- マントルピース内
- 温室、飼育室など人のいない場所

各部のなまえ

トップガード
燃焼室上ぶた
燃焼室
のぞき窓
バーナ
燃焼リング（うえ）
燃焼リング（した）
点火ヒータ
架台
置台
タイマーつまみ
タイマーランプ
燃焼ランプ
煙突接続口
トッププレート
送風機
送風機フィルター
水平器
対震自動消火装置セットレバー
停電切替えつまみ
リセットレバー
ゴム製送油管
電源プラグ
調節脚
電源スイッチ
油量調節ダイヤル

使用前の準備

■燃料

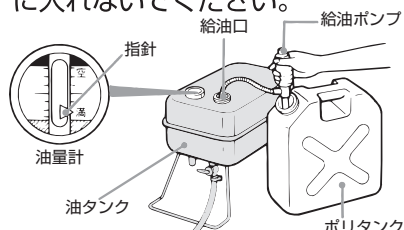
- 燃料は必ず灯油(JIS 1号灯油)を使用してください。
- 変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは絶対に使用しないでください。
  点火、消火しにくくなったり、燃焼が悪くなってすすが出たり、製品の寿命を縮めます。

■給油

給油はストーブを消火してから行ってください。

1 油タンクの送油バルブを閉める

2 油タンクの給油口ふたを外し、給油する

- 油量計の表示が「満」の印以上には絶対に入れないでください。

3 給油口ふたを確実に閉める

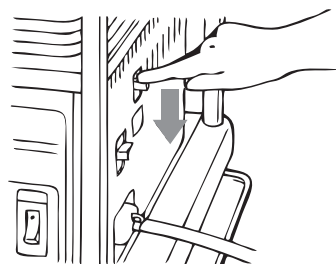
4 こぼれた灯油はよくふきとる

- 油タンクは空にしないでください。
  「空」まで燃焼させるとストーブよりすすが発生し、故障の原因になります。
- 給油するときは、ごみなどが入らないよう注意してください。
  燃焼不良の原因になります。

■点火前の準備と確認

1 対震自動消火装置のセット

- 対震自動消火装置をセットしてください。
  この操作を忘れると、油が流れず点火しません。

セットレバーをいっぱいに押し下げる。

2 油漏れの確認

- ゴム製送油管やストーブの置台に油漏れがないか確認してください。
  万一、油漏れしている場合は送油バルブを閉め、必ずお買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へご連絡ください。

3 ストーブ周囲の確認

- ストーブの周囲及び煙突の周囲に引火物や可燃物がないか確認してください。
  火災や予想しない事故が発生するおそれがあります。

4 煙突の接続の確認

- 煙突が正しく接続されているか確認してください。
  外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて､大変危険です。

5 電源プラグの接続

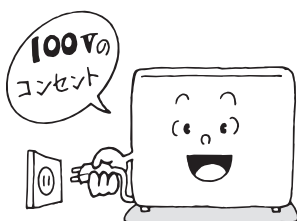
- 電源プラグは100Vの専用コンセントに差し込んであるか確認してください。

6 タイマーつまみの確認

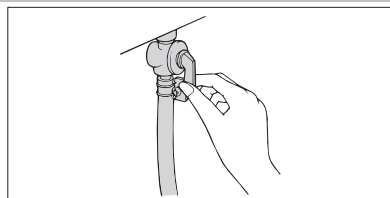
- タイマーつまみが「点火」位置になっているか確認してください。
  合っていないと点火しません。

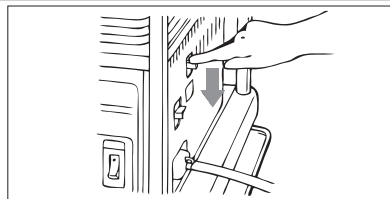
7 停電切替えつまみの確認

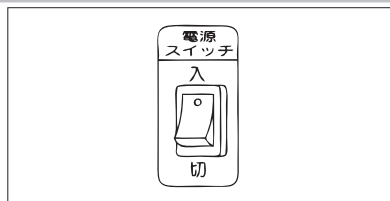
- 停電切替えつまみが押し込まれていることを確認してください。
  停電切替えつまみが押し込まれていないとタイマー点火のとき、バーナ内に油だまりをおこし正常に点火しません。

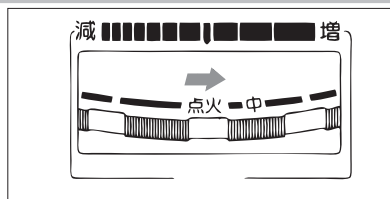
準備

使用方法

■点火

1 油タンクの送油バルブを開く

2 リセットレバーをセットする

- リセットレバーを〝カチン〟と音がするまでいっぱいに押し下げます。

3 電源スイッチを「入」にする

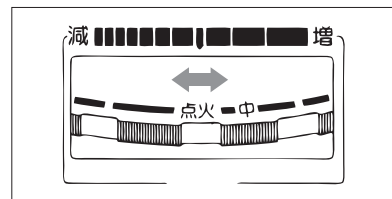
- 燃焼ランプが点灯します。

4 油量調節ダイヤルを「点火」位置に合せる

- 7～12分後「点火」位置の油量で燃焼します。

- 初めて使用する場合、油タンクより油量調節器内へ油が流れてくるまで時間がかかりますので、2～3分放置後点火操作を行ってください。
- 点火の際には、のぞき窓より着火を確認してください。着火しない場合は、油タンクの送油バルブの開放やリセットレバーのセットを確認してください。
- 煙突の設置条件が悪いと、春先や秋口の気温が高い時期に点火時においがすることがあります。煙突が正しく設置されているか点検してください。

- ポット内に油をためてしまったときは、絶対点火しないで、ぼろ布などで油を吸いとってから点火してください。
- ポット内に油をためたまま点火したときは、あわてずに油量調節ダイヤルを「消火」にし、自然に火力が小さくなるのをまってください。このとき、電源スイッチは必ず「入」のままにしてください。

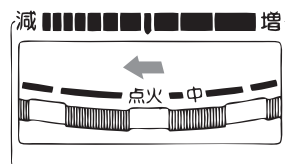
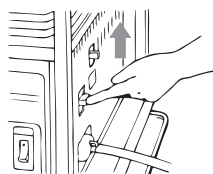
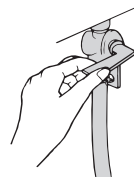
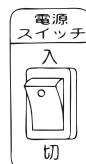
■火力調節

1 油量調節ダイヤルをお好みの位置に合せる

- 点火してから7〜12分後、「点火」位置の油量で燃焼してから行ってください。

- 「大」から「微小」にする場合、いったん「中」にして炎が下がってから「微小」にしてください。
- 燃焼中に炎がかたよったり、また上下変動することがありますが、異常ではありません。
- 点火してから 7〜12 分後、油量調節ダイヤルを「中」から「大」の範囲にすると、約 10 分間燃焼音が大きくなることがありますが、異常ではありません。

- 油量調節ダイヤルを「微小」から「消火」の間に合せての使用は絶対にしないでください。

■消火

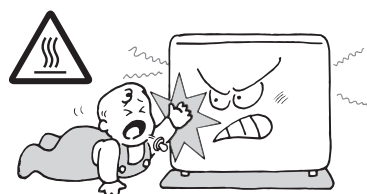
1 油量調節ダイヤルを「消火」位置にもどす

2 リセットレバーを上げる
- リセットレバーを〝カチン〟と音がするまで上げます。

3 油タンクの送油バルブを閉じる

4 火が消えたのを確認して、電源スイッチを「切」にする
- 燃焼ランプが消灯し、送風機ファンが停止します。

- 長期間留守にするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源プラグは送風機ファンが停止してから抜いてください。
- 電源プラグをコンセントから抜いて運転を停止しないでください。
  ストーブが過熱し、故障の原因になります。
- お出かけになるときは必ず消火してください。

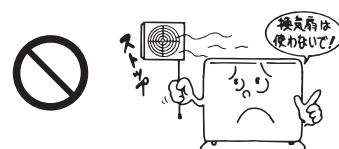
■消火後の再点火

- 消火後すぐ再点火する場合は、ストーブが冷えるまで（15分位）まってから行ってください。
  すぐ再点火しますと爆発燃焼するおそれがあります。

■使用上の注意

高温部に注意

- ストーブの上面・ガードや煙突などは高温です。
  やけどに注意してください。
- 特にお子さまをストーブに近づけないでください。
  保護ガード(関連部材)のご使用をおすすめします。

換気扇使用禁止

- ストーブを使用している時は室内の換気扇を使用しないでください。
  立消えして爆発燃焼するおそれがあります。
  また、換気口・給気口は常に確保し、物などでふさがないでください。

煙突閉そく危険

- 煙突がつまったり、ふさがれたままで使用しないでください。
  閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

再点火に注意

- 消火後すぐ再点火する場合は、ストーブが冷えるまで（15分位）まってから行ってください。
  すぐ再点火しますと爆発燃焼するおそれがあります。

雷時の注意

- 雷が接近したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  激しい雷の影響でストーブが故障するおそれがあります。

- シーズンオフのように長期間使用しないときは電源プラグを抜いてください。

- トップガードは地震などにより、ストーブに可燃物が落下したときに火災になるのを防止するために取り付けたものです。やむをえず取り外した場合には必ず元の状態に取り付けてください。

- ストーブや煙突には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
  ストーブや煙突に熱交換器などを取り付けると排ガス中の水分が結露しやすくなり、結露水が凍結して煙突をふさぎ、不完全燃焼や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。また、ストーブの寿命を短くする原因にもなります。

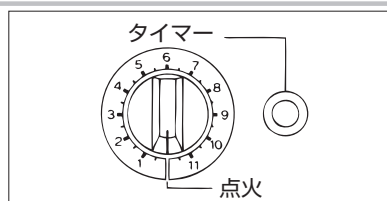
- ストーブ周囲は、ふく射熱が強いので熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。
  変色や変形したりすることがあります。

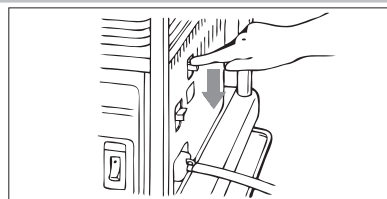
使用方法 つづき

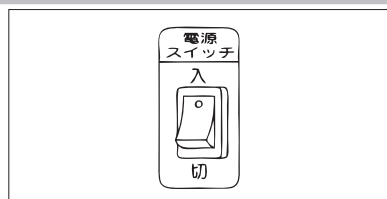
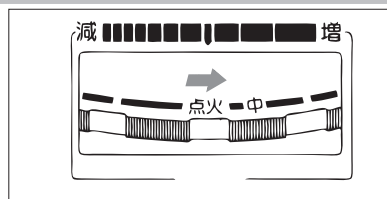
■タイマー運転 タイマー点火

● おめざめ前の寒い朝などお好みの時刻に運転を開始します。

1 タイマーのセット

● タイマーつまみを点火するまでの時間（11時間以内）の目盛に合せる。
（例）９時間後に点火したい場合は「９」の位置に合せる。

2 リセットレバーをセットする

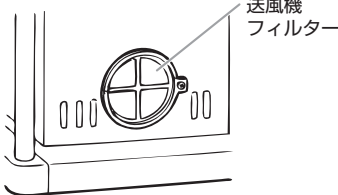
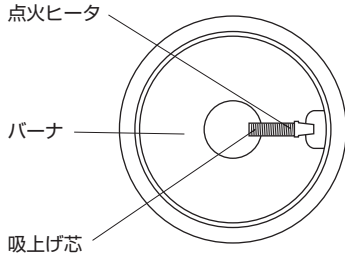
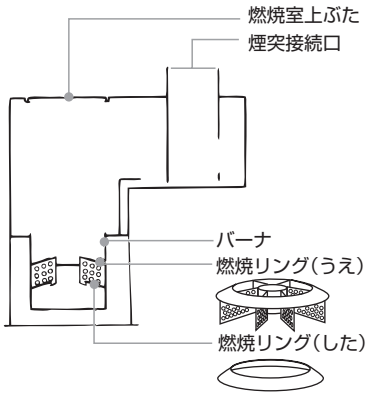
● リセットレバーを〝カチン〟と音がするまでいっぱいに押し下げます。

3 電源スイッチを「入」にする

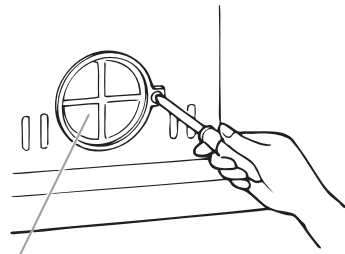
● タイマーランプが点灯します。

4 油量調節ダイヤルを「点火」位置に合せる

● タイマーのセット後、タイマー運転を中止する場合は、電源スイッチを「切」にしてください。
● タイマー時刻前に点火する場合は、タイマーつまみを「点火」位置に合せてください。
● タイマーは時計とはちがい一定の誤差がありますので、タイマーの早まり、遅れをみこした時間をきめセットしてください。
● タイマーセット中に停電や電源プラグの抜けがあったときは、その時間分だけ点火時間が遅れます。

● タイマー運転のとき、停電切替えつまみがいっぱいに押し込まれていることを確認してください。押し込まれていないと油だまりをおこし正常に点火しません。
● タイマー点火をする場合は、周囲に可燃物があったり、その他危険な状態のないことを確認してください。
● おでかけのときはタイマー点火をしないでください。予想しない事故が発生するおそれがあります。

安全装置

●異常が生じたとき、自動的に作動する装置です。

●安全装置が作動した場合、下記の処置をしてください。

安全装置のなまえ ●作動の原因	作動した時の現象	処置の方法
対震自動消火装置 ●地震(震度５程度以上)のとき ●強い振動や衝撃を受けたとき	自動的に消火します。	消火操作を行いストーブの周囲や煙突の外れやゆるみ、油漏れなどの異常がないことを確認し、ストーブが冷えるまで（15分位）まってから、対震自動消火装置のセットレバーを押し下げ、再点火操作してください。
停電安全装置 ●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき	自動的に消火します。	● 再通電されると再び点火燃焼より始まりますが、安全のため停電時は消火操作を行ってください。 ● 停電時に燃焼を続ける場合は、ポット内に種火のあることを確認して、停電切替えつまみを引いてください。種火のない場合は絶対につまみを引かないでください。 ● 再通電したら必ず、つまみを元の位置まで押し込んでください。

日常の点検・手入れ

■点検・手入れのときの注意

- 必ずストーブの運転を停止し、ストーブが冷えた状態で行ってください。

■点検・手入れの必要項目、時期、方法

時期	点検・手入れ項目	方　法
シーズンはじめ	煙突	●煙突の接続箇所が外れていないか、また支え金具や支え線で固定されているか点検します。 ●煙突が鳥の巣や紙などでふさがれていないか点検します。 ●煙突が腐食などで穴があいたりしていないか点検します。
使用ごと	油漏れ・油のたまり・油のにじみ	●ゴム製送油管や置台に油漏れ、油のたまり、油のにじみがないか点検します。
使用ごと	周囲の可燃物・引火物	●ストーブの上や周囲・煙突の周囲に可燃物、引火物がないか点検します。
使用ごと	排ガスの漏れ	●排ガスのにおいや、目がチカチカしないか点検します。排ガスが漏れていますと危険です。
使用ごと	煙突	●煙突内や煙突トップが雪や氷でふさがれていないか点検します。 ●煙突が落雪などで倒れていないか点検します。
週に1回以上	送風機フィルター	●ストーブ背面の送風機フィルターに付いたほこりを掃除機などで取り除きます。 （図：送風機フィルター）
月に1回以上	ストーブ外観 安全のため、電源プラグをコンセントより抜いてから行ってください。	●ストーブや置台などのほこりや汚れは、乾いたやわらかい布などできれいにふきとります。 ●シンナー・アルコール・ベンジンなどは使用しないでください。

時期	点検・手入れ項目	方　　　　法
適時	**バーナ・燃焼リング** 安全のため、電源プラグをコンセントより抜いてから行ってください。	● バーナ内に油をためてしまったときや、バーナにすすが付いて、炎がふぞろいになったとき、バーナの底にすすやカスがたまって着火がおそくなったときは、次のようにして取り除いてください。 **1** **燃焼室上ぶたを外す** **2** **バーナ内の燃焼リングを取り出す** ● すすが付いている場合は、取り除きます。 **3** **バーナ内部のすすをドライバーなどでかき落とし、掃除機などで吸い取る** ● すすを取り除くとき、点火ヒータの発熱線や吸上げ芯をいためないようにしてください。 **4** **点火ヒータの吸上げ芯がバーナの底に付いていることを確認する** **5** **燃焼リング（うえ）・（した）を図のように取り付ける**

● 燃焼リング（うえ）・（した）はまちがわないよう正しく取り付けてください。
逆に取り付けたりしますと、異常燃焼の原因になります。
● 燃焼リングが変形や焼損していますと、燃焼が悪くなります。
そのような場合は、新しいものと交換してください。
交換部品はお買い求めの販売店に依頼してください。

日常の点検・手入れ つづき

<table>
<tr><th>時期</th><th>点検・手入れ項目</th><th>方　　法</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1シーズンに2〜3回</td><td>送風機ファン</td><td>● 送風機ファンに付いたほこりを次のように取り除いてください。
1 送風機フィルターを固定しているねじ(1本)をゆるめ、取り外す
送風機フィルター
2 送風機ファンに付いたほこりをブラシなどで落とし、掃除機で吸い取る
送風機ファン
● 送風機ファンに付いたほこりを取り除くとき、ファンを変形させないでください。異常音や異常燃焼の原因になります。</td></tr>
<tr><td>ゴム製送油管</td><td>● ゴム製送油管にひび割れが生じていないか点検します。
● ゴム製送油管は経年変化しますので3年に1度新しい物に交換してください。
● 交換はお買い求めの販売店に依頼、又は最寄りのサンポット支店・営業所にご相談ください。</td></tr>
<tr><td>電源プラグ</td><td>● 電源プラグにほこりが付着していないか点検します。</td></tr>
<tr><td>給油のとき</td><td>油タンク</td><td>● 油タンク内に水やごみがたまっていないか点検します。
● 油タンク内の水抜き、ストレーナ(ろ網)の掃除は、油タンク附属の取扱説明書に従って行ってください。
給油のときは点検してね
油タンク</td></tr>
</table>

定期点検

サンポット半密閉式石油ストーブは使用される場所や条件、また使用時間により消耗・劣化する部品がありますので、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL.03-3499-2928)で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕による定期点検を受けてください。

■定期点検の実施時期

2シーズン毎に1回程度定期点検を受けてください。
ただし、湿度の高いところ、ほこりの多いところ(例えば、厨房室や製綿工場など)、温泉地域などでご使用の場合は、1 シーズン毎の点検が必要となりますのでお買い求めになった販売店にご相談ください。

定 期 点 検

定期点検は専門の技術者が、設置状態、煙突まわりの点検・安全装置及び運転動作の点検・確認、使用時間により消耗劣化しやすい部品の点検などを行います。
安全にお使いいただくために製品の状態を点検診断するものですから必ず受けてください。

お申し込み先

お客さま→お買い求めになった販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所。

定期点検費用

定期点検の費用についてはお買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所にご相談ください。
定期点検の結果、部品交換及び修理などが必要な場合は、処置内容及び費用についてお客さまにご相談申しあげます。

■定期点検の内容

定期点検の内容	項　　目
設置状態、煙突まわりの点検・確認	●製品の設置・使用状態　●送油経路部の油漏れ（ゴム製送油管含む） ●煙突接続とつまり
安全装置及び運転動作の点検・確認	●安全装置の働き　●運転動作の点検 ●操作部品や動く部品の働き
環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換	●点火ヒータなどの点検 ●バーナ・燃焼リングなどの点検 ●送風機の点検　●各種パッキンの点検 ●のぞき窓の点検
製品の清掃・整備	●本体内　●送風機ファン　●油タンクの水抜き

故障・異常の見分け方と処置方法

異常が生じた場合は下表を参照して、お客さまご自身で処置してください。

現象 / 原因	燃焼ランプが点灯しない	点火しない	炎が立上がり、黒煙を出して燃える	においがする	使用中に消火する	処置	参照ページ
電源プラグがコンセントから抜けている	●	●				電源プラグをコンセントに確実に差し込む	10
油タンクに灯油がない		●			●	給油する	9
油タンクの送油バルブが閉じている		●			●	送油バルブを開く	11
油量調節器の安全装置が作動している		●			●	リセットレバーをセットする	11
煙突が外れていたり、ふさがっている			●	●		接続しなおす 掃除する	17
送風機フィルターやファンにほこりが付着している			●			掃除する	17 19
燃焼リングの取り付けが誤っている			●			取り付けなおす	18
燃焼リングが焼損・変形している			●			交換する	18
地震や強い衝撃があった					●	対震自動消火装置のセットレバーを下げる	16

以上の方法で点検し、処置してもなおらないときは、使用を中止しお買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へご相談ください。
修理をお申しつけのときには故障内容をできるだけ詳しくご連絡ください。

部品交換のしかた

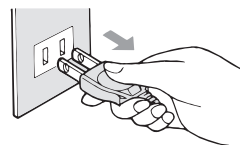
- 経年により消耗、劣化しやすい部品があります。
- 異常かなと思われましたら、お買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所にお問い合せください。個人での不完全な修理は危険です。
- 修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕が修理いたします。

■消耗、劣化しやすい部品

項　　目	内　　容
使用時間により交換が必要な部品	点火ヒータ・燃焼リング
環境により劣化しやすい部品	燃焼用送風機・ゴム製送油管
不良灯油を使用されて劣化しやすい部品	油量調節器・電磁弁

保管(長期間使用しない場合)

- 長期間使用しないとき(シーズン終了時)は、次の要領でお手入れしてください。

1 電源プラグをコンセントから抜く
- ぬれた手で触らないでください。
感電のおそれがあります。

2 ストーブ外装、送風機フィルター、送風機ファンの掃除をする
(17・19ページ参照)

3 油タンクの送油バルブを閉じる

4 ストーブは据付けたまま保管する
- どうしても取り外して保管するときは、湿気やほこりの少ないところに保管してください。
- 次シーズンに据付けるときには、必ずお買い求めになった販売店に依頼してください。

仕様

項目		仕様
型式の呼び		KSH-10KT6
種類		ポット式、強制通気形、自然対流形
点火方式		電気点火
使用燃料		灯油（JIS1号灯油）
燃料消費量	最大	10.5kW（1.02L/h）
	最小	1.85kW（0.18L/h）
発熱量	最大	37,780kJ/h
	最小	6,670kJ/h
熱効率	最高	69.8%（目盛大）
	最低	62.1%（目盛微小）
暖房出力	最大	7.33kW
	最小	1.15kW
外形寸法（置台を含む）		※高さ570mm 幅690mm 奥行380mm
質量		25.5kg
電源電圧及び周波数		100V　50/60Hz
定格消費電力		点火時 102/99W　燃焼時 23.5/20.5W
待機時消費電力		0W
煙突の呼び径		106（3寸5分）
標準ドラフト値（最大燃焼時）		−11.8Pa（−1.2mmH_2O）
排気温度		490℃（最大燃焼時）
安全装置		対震自動消火装置、停電安全装置
附属品		置台（1）、ゴム製送油管（1）、ワイヤーバンド（2）、トップガード（1）、補助ガード（1）、4×10タッピンねじ（1）、取扱説明書（1）、保証書（1）

※外形寸法にトップガードの高さは含みません。
　トップガードの高さは61mmです。

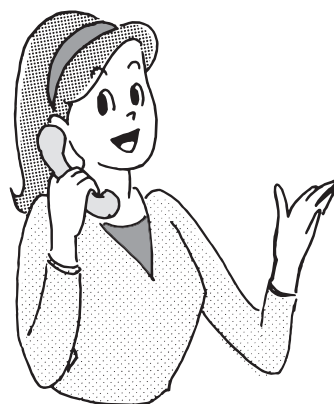
アフターサービス

■保証について

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

■修理を依頼するときについて

「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って点検してください。処置してもなおらないときは、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へご連絡ください。
修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理いたします。

ご連絡していただきたい内容	
ご住所	
おなまえ	
電話番号	
製品名	半密閉式石油ストーブ
型名	KSH-10KT6
お買い上げ日	年　月　日
故障又は異常の内容	できるだけ詳しくお知らせください。
訪問ご希望日	

- 保証期間が過ぎているときは、販売店にご相談ください。
  修理によって使用できる場合は、ご希望により有料修理いたします。
- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へお問い合せください。

■補修用性能部品について

- 半密閉式石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後10年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

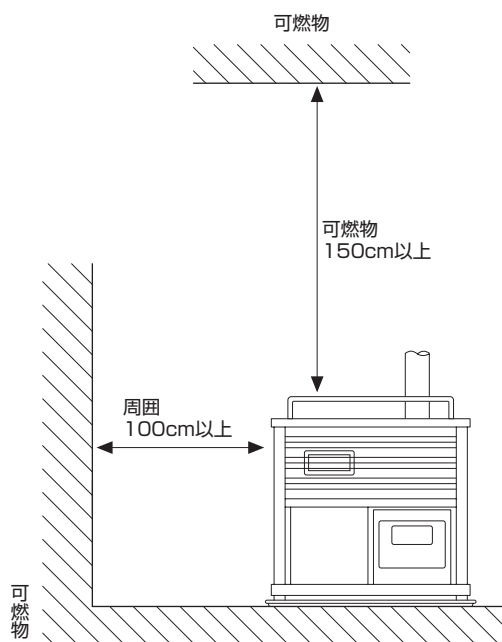
据付け・移設

■据付け・移設工事は販売店に依頼する

据付けや移設工事は販売店又は据付業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

■据付け場所の選定及び標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事編の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり販売店又は据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

【ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離】

- 上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図離隔距離としてください。

■据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事編の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、工事編に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

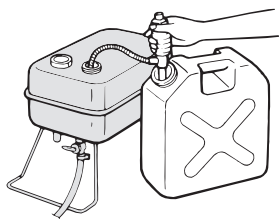
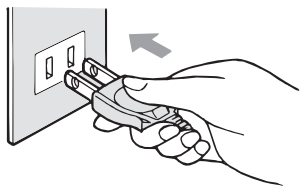
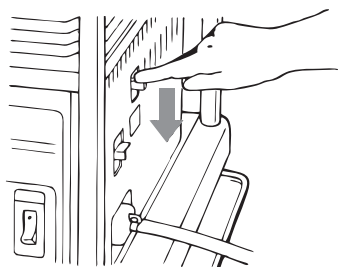
点検箇所	点　　検　　項　　目
ストーブ	● ストーブ周りは必要な空間がありますか。 ● 床面の不安定な場所に据付けてありませんか。 ● ストーブの上に不安定な物をのせた棚などがありませんか。 ● 密閉された部屋では、空気取入口を設けてありますか。 ● 電源コードは煙突などの高温部に触れていませんか。 ● 電源コンセントは適切な位置にありますか。
油タンク	● 油タンクや送油管・ゴム製送油管から油漏れはありませんか。 ● 油タンクとストーブとの間は、防火上有効な壁などがある場合を除き、2m以上離れていますか。 ● ゴム製送油管を屋外で使用していませんか。（屋外銅配管）
煙　突	● 煙突は呼び径106（3寸5分）のものを使用していますか。 ● 煙突の周囲や貫通部は、基準寸法が守られていますか。 ● 煙突にカーテンなど、燃えやすいものが接触することはないですか。 ● 煙突の外れ、ゆるみはありませんか。 ● 煙突は壁や天井に支え金具などで固定されていますか。 ● 屋外の煙突は、風や振動で倒れないよう支え金具などで固定してありますか。 ● 排ガスは屋外へ排気されていますか。

据付け・移設 つづき

■試運転

試運転は、販売店又は据付業者とご一緒に必ず行ってください。

運転準備

1 油タンクに給油する
(9ページ参照)

2 電源プラグをコンセントに差し込む

3 対震自動消火装置のセットレバーをいっぱいに押し下げる

確認

- 油タンクや送油管・ゴム製送油管から油漏れがないか。
- 置台の上などに油がこぼれていないか。
- ゴム製送油管内に空気がたまっていることがありますので、ゴム製送油管を振って空気を抜いてください。

運転

1 リセットレバーをセットする
- リセットレバーを〝カチン〟と音がするまでいっぱいに押し下げます。

2 電源スイッチを「入」にする
- 燃焼ランプが点灯します。

3 油量調節ダイヤルを「点火」位置に合せる
- 7〜12分後「点火」位置の油量で燃焼します。

消火

1 油量調節ダイヤルを「消火」位置にもどす

2 リセットレバーを上げる
- リセットレバーを〝カチン〟と音がするまで上げます。

3 火が消えたのを確認して、電源スイッチを「切」にする
- 燃焼ランプが消灯し、送風機ファンが停止します。

- ストーブより煙やにおいが出ることがありますが、燃焼室の塗装やパッキン類が焼けるためで異常ではありません。最大燃焼で数十分運転すると消えますので、部屋の換気をしながら試運転してください。

工事編

■設置工事の前に、この工事編をよくお読みのうえ、正しく据付けてください。

安全のために必ずお守りください

この工事編には本機を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項が表示されています。
表示内容をよくご理解いただき、本文をお読みください。

●ここに示した事項は ⚠ 警告、⚠ 注意に区分しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト（まんが）の横にあるマークは次のように表しています。

マーク	禁　止
マーク	指　示
マーク	注　意

安全のために必ずお守りください

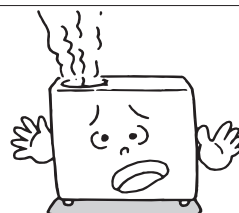
⚠警告

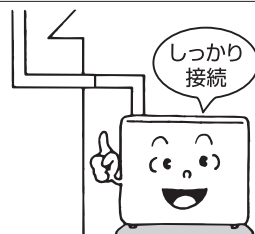
据付けや移設は、販売店または据付業者が行ってください。

- お客様ご自身で据付けをされ、不備があると感電や火災の原因になります。

据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守って行ってください。

屋内排気禁止

- 屋内に排気すると、排ガスが室内に充満して危険です。
  必ず屋外に排気してください。

煙突を確実に接続

- 煙突を確実に接続し、しっかりと固定してください。
  風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

⚠注意

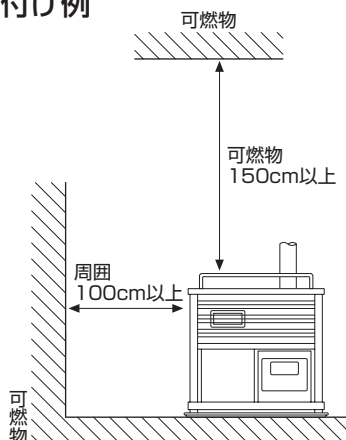
次の場所には据付けない

火災や予想しない事故の原因になります。

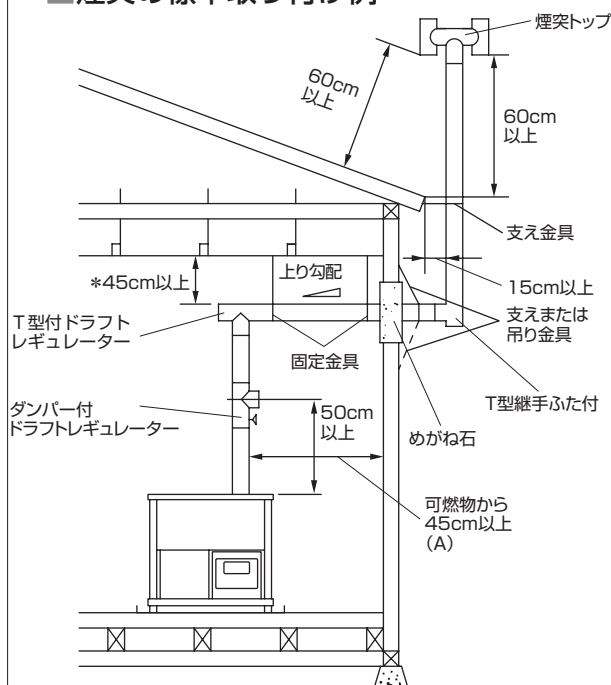
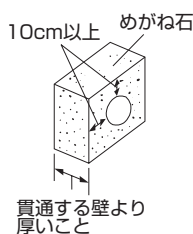
■水平でない場所、不安定な場所
■不安定な物をのせた棚などの下
■可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
■燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所または換気の行えない場所
■付近に燃えやすいものがある場所
■階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
■マントルピース内
■温室、飼育室など人のいない場所

⚠注意

可燃物との距離を離す

■標準据付け例

- ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。
- 左図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も左図離隔距離としてください。

■ストーブに附属された置台の上に据付けること。

■煙突の標準取り付け例

- 煙突の先端から水平距離1m以内に建物の軒がある場合は、その軒から60cm以上高くすること。煙突の先端1m以内に建物の開口部(窓)がないこと。
- 煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は必ずめがね石を使用してください。
- A寸法は45cm以上としていますが、ストーブと可燃物との離隔距離でも規制されます。

地区により異なることがあるので火災予防条例を参照する。

注＊45cm以上の寸法は、煙突が本体から1.8mを超える場合、15cm以上とする。煙突は、固定金具で1.5～2m間隔に固定すること。

- 小屋裏、天井裏などにある部分は金属以外の不燃材料で防火上有効な被覆を行ってください。
- 可燃性の壁、天井、小屋裏、天井裏などを貫通する部分及びその付近では煙突の接続はしないでください。
- 不燃物の場合でも性能維持のため、上図離隔距離としてください。

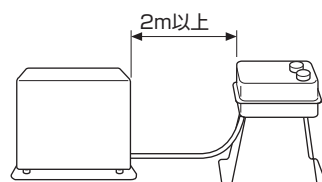
■煙突の固定

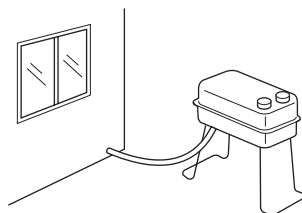
- 煙突は、風や振動などで倒れないよう支え金具や支え線などで固定してください。
- 煙突は、1.5～2mおきに固定金具で固定し、自重を支える部分は支え又は吊り金具で堅固に支持してください。

安全のために必ずお守りください

⚠注意

油タンクとの距離を離す

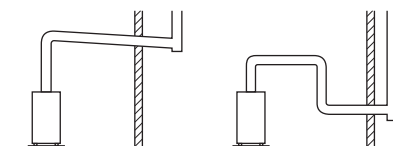
- 油タンクはストーブより2m以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。据置式の油タンクは、不燃材の床上に据付けること。

ゴム製送油管の屋外使用禁止

- ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

油漏れ確認

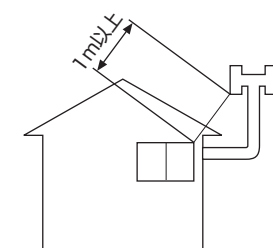
- 油タンク・ゴム製送油管・接続部およびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。
  灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

煙突の点検

- 据付けが終わりましたら、もう一度点検してください。
  次のような取り付けは、危険であったり、異常燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。

■下り勾配、下向き曲がり禁止

■トップと建物（隣家を含む）の開口部（窓など）は1m以上離れていること

開こん

工場出荷時燃焼試験を行っていますので、燃焼リングなどが一部変色していますが異常ではありません。

● 本体のほかに次のものが用意されています。梱包材といっしょに捨てることのないよう点検し、ご使用ください。

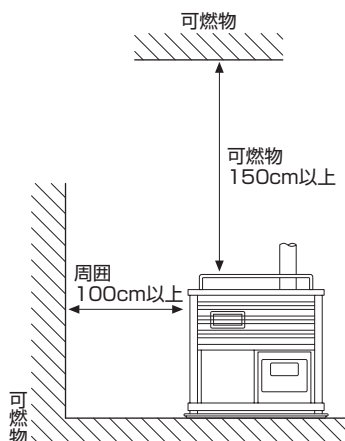
部　品　名	個　数	使　用　方　法
置　　　　台	1	ストーブの下に敷きます。
ゴム製送油管	1	油タンクからストーブへ油を送るために使用します。
ワイヤーバンド	2	ゴム製送油管の接続部の固定に使用します。
トップガード	1	トッププレートに取り付けます。
補助ガード	1	煙突接続口を右側面に変更した場合、トップガードに取り付けます。
4×10タッピンねじ	1	煙突とストーブの固定に使用します。
取扱説明書	1	
保　証　書	1	

据付け

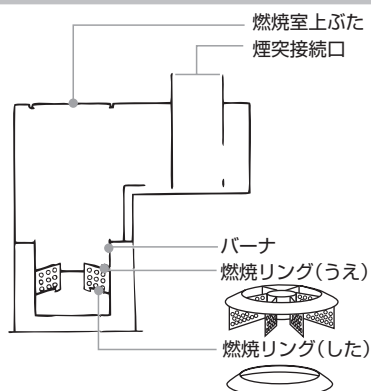
■据付け場所の選定 ●ストーブの据付けは、火災予防条例に従ってください。

図に示す寸法以上離して、次のような点にご注意ください。

- 燃えやすいものや障害物のない場所。
- 水平で安定のよい、しっかりした場所。
- 電源は家庭用100Vの電源コンセントをご使用ください。(電源コードの有効長さは約2mです。)

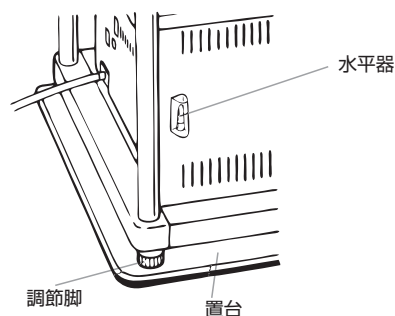
- マントルピース内に据付けたり、ペチカに煙突を接続したりしないでください。ストーブが故障したり、火災の原因になります。

■部品の取り付け状態の確認

● 部品は正しく取り付けられていないと異常燃焼します。正しく取り付けられているか確認してください。

1 燃焼室上ぶたを外し、図のように燃焼リング（うえ）・（した）が正しく置かれているか確認します。

■置台の取り付けと水平調節

● 置台の取り付けとストーブの水平調節は次のように行ってください。

1 ストーブを置台に乗せる

2 ストーブ背面の水平器のふりこが赤丸マークの範囲内になるよう、ストーブ4箇所の調節脚を回して調節する。

● ストーブは必ず水平に設置してください。水平になっていませんと、異常燃焼の原因になります。

■煙突接続口の変更

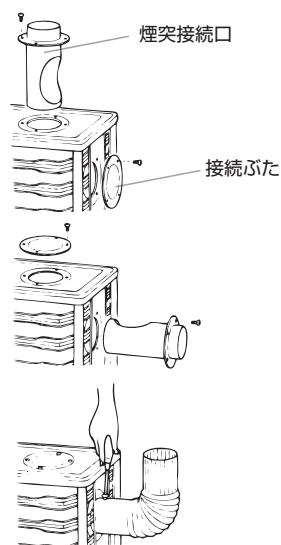
● 煙突接続口を右側面に変更する場合は、次のように行ってください。

1 煙突接続口と接続ぶたの取付ねじ（各４本）を外す。

2 煙突接続口を排気経路穴を上側にして燃焼室右側の穴に差し込み、１で外した取付ねじで固定する。

3 接続ぶたを燃焼室上面の穴に当て、１で外した取付ねじで固定する。

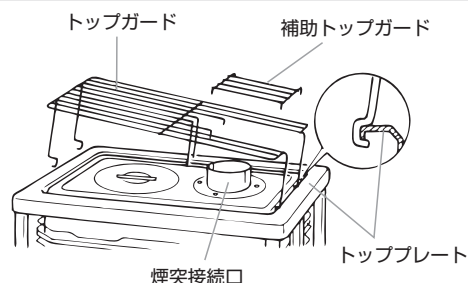
4 煙突を煙突取付ねじで固定する。
ねじで固定できないときは煙突を針金などでストーブに固定し、煙突が外れないようにしてください。

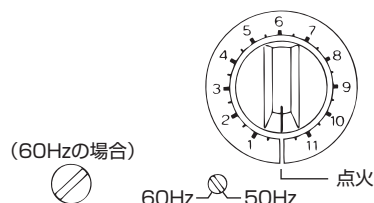
据付工事

据付け つづき

■トップガードの取り付け

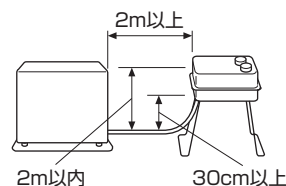
● トップガードの取り付けは、次のように行ってください。

1. トップガードの脚2本をトッププレートの内側に引っかけ、もう一方の脚２本を内側につぼめながら、引っかける。

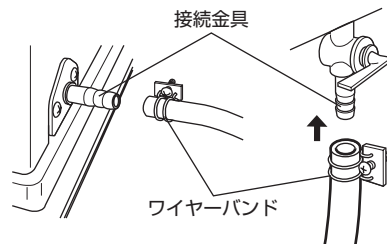
2. 煙突接続口を右側面に変更した場合は、補助トップガードをトップガードの上に乗せる。

■タイマー周波数の確認

ご使用になる地区の電源の周波数とタイマーの周波数が違っていると、時間に差が生じます。
必ず、操作部のタイマー左下の周波数切替ねじを使用地区の周波数に合せてください。

● タイマーは、あらかじめ 50Hz に合せてありますので、60Hz 地区で使用する場合は、必ず切替えを行ってください。

■油タンクの組立てと据付け

● 油タンクを油タンク附属の取扱説明書に従って組立ててください。

● 油タンクの据付けは、各地の火災予防条例に従ってください。
● 油タンクは熱・振動・衝撃の少ない場所に据付けてください。
● 油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は、2m以上離してください。
火災の原因になります。
● 油タンクは、油タンクの油面がストーブ設置床面より30cm以上2m以内の高さになるように据付けてください。
2m以上になると、油が定油面器よりあふれ出ることがあります。

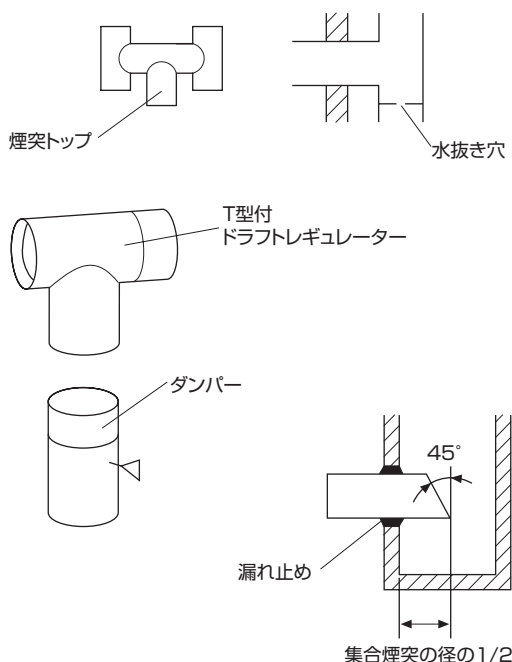
■ゴム製送油管の取り付け

- ゴム製送油管を接続金具の根元まで差し込み、附属のワイヤーバンドで固く締め付けてください。

- ストーブ側接続金具にかぶせてあるキャップを外すとき、内部の残油が出ることがありますので、布などを当てて外してください。
- ゴム製送油管の先端や途中を極端に曲げて配管しないでください。最小の曲げ半径は100mm程度以上としてください。
  ゴム製送油管にひび割れを生じて、油漏れの原因になります。
- ゴム製送油管は上に物をのせたり、重量物がのったり、空気溜りができるような形状にならないようにしてください。
- ゴム製送油管は、JIS S 3022「石油燃焼機器用ゴム製送油管」に合格したもの以外は使用しないでください。
- 送油管の屋外部分及び埋設部分は、防錆処理された鋼管、又は銅管（外径8mm、肉厚0.8mm）を使用してください。ゴム製送油管は使用しないでください。
- ゴム製送油管は紫外線があたると劣化が早くなります。できるだけ日光にあたらない場所を選んでください。
- 金属製送油管で配管する場合は、切断、加工時の切りくずや切粉をきれいに取り除いてから配管してください。
  油量調節器から油があふれたり、電磁ポンプが故障する原因になります。

煙突の取り付け

煙突は排ガスを屋外に排出するとともに、燃焼に必要な空気を燃焼部へ供給する重要な役割をもっています。誤った取り付けは、異常燃焼や火災の原因になりますので、次のことを守ってください。(煙突の取り付けは各地の火災予防条例に従ってください。)

- 煙突径は呼び径106(3寸5分)を使用してください。
- さびやすい素材の煙突は、腐食やさびにより煙突がふさがれたりしますので、使用しないでください。
- 新しく煙突を設置する場合は、グラスウール断熱煙突を推奨します。
- 横引き、立上がりの標準寸法は横引き約1.8m、立上がり約3.6mです。
  横引きが標準より長くなる場合は、その長さの1/2の立上がりを追加してください。
- 横引きは、上り勾配になるようにし、途中で下向きにしないでください。
- 煙突の先端は逆風や雨水が入らないように、図のようなトップを付けてください。トップは付近の最も高いものより60cm以上高い位置に設置してください。
- 屋外立上がり部の接続はT曲がりを使用し、水抜き穴(6mmの穴)をあけてください。
- 風の強い地方及び建物の関係から煙突を極端に高くする場合〔最大燃焼時のドラフトが－30Pa(－3.0mmH_2O)より強い場合〕には、燃焼を安定させるためと、熱効率の低下を防止するために、図のようなT型付ドラフトレギュレーターやダンパー(別売部品)を使用してください。
  ダンパーの取付位置はストーブ本体から約50cm以上離れた室内の垂直部分に取り付けてください。
- 集合煙突を利用する場合には、図のような差し込みかたをし、煙突が外れないよう固定してください。
- 外付けの集合煙突や屋外での横引き煙突の場合、煙導部が冷やされ、結露しやすくなり、凍結して煙突を塞ぐ原因になります。必ず修正してください。(特に北側や日陰部の煙突)

- 煙突の横引き延長が長いと、排ガス中の水分が結露して室内を汚したり、屋外で凍結して煙突を塞いだり、集合煙突から室内へ漏水することがあります。
  煙突の横引きが2mを越える場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

試運転

試運転は使用者とご一緒に必ず行ってください。

■運転準備・運転・消火の手順は取扱編の27ページをご参照ください。

廃棄するときの注意

ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。
リサイクルの支障となります。

サンポット株式会社

お客様相談窓口〔受付時間：平日午前9時から午後5時まで〕
☎0198-37-1177　FAX.0198-37-1192

札 幌 支 店　〒065-0042　札幌市東区本町2条10丁目1番25号　☎011-785-1211　FAX.011-782-8262
釧路営業所　〒085-0051　釧路市光陽町8番1号　☎0154-22-5821　FAX.0154-32-2289
帯広営業所　〒080-0801　帯広市西13条南11丁目9番地　☎0155-22-1335　FAX.0155-28-2266
旭川営業所　〒078-8237　旭川市豊岡7条6丁目6番10号　☎0166-34-8636　FAX.0166-39-2157
函館営業所　〒041-0851　函館市本通4丁目17番25号　☎0138-53-2583　FAX.0138-33-2180

仙台営業所　〒983-0034　仙台市宮城野区扇町4丁目2番40号　☎022-236-3444　FAX.022-238-9416
郡山営業所　〒963-8041　郡山市堤2丁目5番地　☎024-962-9288　FAX.024-962-9266
青森営業所　〒030-0131　青森市問屋町2丁目18番18号　☎017-738-4141　FAX.017-738-5354
秋田営業所　〒010-0914　秋田市保戸野千代田町15番17号　☎018-824-3421　FAX.018-824-3423
岩手営業所　〒025-0301　花巻市北湯口第2地割1番地26　☎0198-37-1138　FAX.0198-37-1188

首都圏営業所　〒352-0001　新座市東北2丁目24番3号　☎048-471-8420　FAX.048-470-1141
信越営業所　〒381-0031　長野市大字西尾張部1114番地5　☎026-252-6161　FAX.026-252-6162
大阪営業所　〒564-0053　吹田市江の木町18番27号　☎06-6337-3211　FAX.06-6337-3212
富山営業所　〒939-8212　富山市掛尾町479番地4　☎076-420-2677　FAX.076-420-2238

サンポットエンジニアリング株式会社
サービス部　〒065-0042　札幌市東区本町2条10丁目1番25号　☎011-785-1201　FAX.011-780-2338
青森サービスセンター　〒030-0131　青森市問屋町2丁目18番18号　☎017-738-4414　FAX.017-738-4415

サンポットホームページ　http://www.sunpot.co.jp/

事業所名・住所・電話番号は変更することがあります。あらかじめ了承願います。

愛情点検　●長年ご使用の石油暖房機の点検をぜひ！

ご使用の際、こんな症状はありませんか？

●油漏れがある。
●排ガスのにおいがしたり、目がチカチカする。
●運転中異常な音がする。
●黒煙を出して燃える。
●その他の異常や故障がある。

ご使用中止

このような場合、事故防止のため使用をせずスイッチを切りコンセントから差し込みプラグを抜いて、必ずお求めの販売店または石油機器技術管理士や点検整備士に、点検修理をご相談ください。ご自分での修理は危険な場合がありますから、絶対なさらないでください。

ご購入(据付)年月日	年　月　日
ご購入店名	 TEL.

お客様へ……おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。

32400032900E
1449